

水泳用タイマー製造長野テクトロン

フィットネス市場開拓

都内の水着脱水機メーカーを買収

電子機器向け入力装置製造などの長野テクトロン(長野市)は17日、高速回転脱水機製造販売などのハヤブサ技研(東京)の全株式を取得して子会社化した。ハヤブサ技研によると、フィットネスクラブやホテルなどのプールに置く同社の水着用脱水機は国内トップシェア。一方、長野テクトロンは水泳用トレーニングタイマーを手掛けており、両社の販路を生かしてフィットネス関連市場を開拓する。



ハヤブサ技研の水着用の高速回転脱水機

両社の販路生かし販売

ハヤブサ技研は1987年創業従業員7人。脱水機「HSD」シリーズは、独自開発の高性能モーター(毎分約3500回転)を搭載し、5秒ほどの回転で水着の水分を飛ばす。これまでに全国の学校やスイミングスクールなど約4千施設に計約1万台を販売した。脱水機用の除菌消臭液(次亜塩素酸水)も扱い、脱水槽に噴霧する機種もある。新型コロナウイルス下の衛生意識の高まりで、消臭液単体の販売も好調という。創業者の浜義人・前社長(80)は後継者がおらず、他社への譲渡を模索。事業拡大を図る長野テクトロンが仲介会社を通じてハヤブサ技研を知り、買収した。株式取得額は

非公表。

市場調査会社の矢野経済研究所(東京)によると、2020年10月時点の全国のフィットネス施設は、前年同期比33・1%増の7893施設。健康志向の高まりで「24時間型」や、特定のトレーニングに絞った「小規模型」が増加する一方、プールを備えた「総合型」は相対的に減っている。長野テクトロンの柳沢由英社長は、こうした総合型やホテルなどプールのある施設に着目。脱水機の設置が「利用者サービスとして施設の付加価値を高める」とし、今後販売を強化する考えだ。

同社は、03年に群馬県の強化選手のコーチから依頼を受け、一定間隔で繰り返し泳ぐ「インターバルトレーニング」などに使うタイマーを開発。全国の大学やスイミングスクールなど約1千施設に3千台超を納入した。柳沢社長は「これまでフィットネス関連はタイマーしか商材がなかったが、脱水機が加わる。シナジー(相乗効果)が見込める」

とする。

長野テクトロンは18年からM&A(企業の合併・買収)を積極的に行い、21年には遠隔読影事業の「YKR medical labo」(ワプ)の22年1月期の売上高は20億円を見込んでいる。

オリンパス顕微鏡分社化

辰野のエビデントが事業承継

医療分野に経営資源を集中

オリンパスは17日、祖業の顕微鏡など科学事業を来年4月に分社化すると発表した。中核事業の内視鏡など医療分野に経営資源を集中させるため、第三者への売却を含め検討を進める。今年11月に設立した完全子

披露宴 格参入



神

全国的に30〜40人規模の結婚式が主流となる中で、強みの料理をウエディング事業に生かせるかと判断。11月に改装工事を終え、専属ウエディング

広い紫外線 範囲・時間を自在に

照射装置

御代田町)と光学(東京)は、天井に「are222iシリプi-MVT」を発売する。新型装置として、医療



Care222iシリプi-MVTズームリングライト

照射装置を製品化として販売。現

ツミの照明機器「SALIOT(サリオ)」に、紫外線の光源モジュール(複合部品)を組み込むことで、照射する範囲や時間を変えられるようになった。ミネベアミツミ広報・IR室は「設置場所の上下左右に照射でき、従来複数台必要だった範囲を1台で賄える」としている。オープン価格。